



テレワーク中の職員とのテレビ会議



総務省ロビーでの4K8K展示

新しい放送サービスを日本に導入する

本年12月1日から「新4K8K衛星放送」が開始されます。新4K8K衛星放送とは、横方向の画素数がそれぞれ4千画素(4K)、8千画素(8K)もある超高精細なテレビ番組を、放送衛星(BS)や通信衛星(110度CS)から放送するサービスです。総務省では、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には全国の世帯の50%でこうした超高精細な映像が視聴されることを目指しています。放送開始に向け、放送事業者は現行のBS放送の帯域を削減して4K放送用にチャンネルを空ける作業を行っており、また受信機メーカーは受信機の開発を進めていますが、限られた時間の中でそれぞれの作業が円滑に進むよう、総務省で全体の進捗管理を行っています。

最先端のICT技術で世界に貢献する

新4K8K衛星放送は、単に解像度が超高精細なだけでなく、明るさについてもハイダイナミックレンジ(HDR)という技術が用いられており、夜景や花火などの暗い映像や、高校野球や海水浴などの明るい映像でも、くっきりと写し出すことができます。また、新4K8K衛星放送では、「HEVC」(High Efficiency Video Coding)という最新の映像圧縮技術を用いることにより、有限な資源である電波を有効に利用することができます。これらの最先端技術には、総務省が主導して研究開発を行った成果や、国際標準化を進めた技術が多数含まれています。国際標準にするためには他国と妥協しなければならぬ場合も多く、あらかじめ国内で対処方針を作成して会議に臨むのですが、現場で我が国としての判断を求められることもあります。

総務省での仕事のやりがい

総務省では、民間企業や大学と連携して世界最先端のICT技術の研究開発や国際標準化を実施するなど、民間企業の研究所に比べ、日本や世界に役立つ業務に直接携わることができます。私自身も、例えば第4世代移動通信システム(4G)の研究開発や国際標準化に携わる機会に恵まれました。

また、世界最先端のICTを社会に導入することも総務省の大きな役割であり、そのために、研究会や審議会を開催したり、法律や規則の改正案を作成したりすることも重要な業務になります。自分が携わっている業務がニュースや新聞などで前向きに取り上げられたり、業界の方々だけではなく一般の方々からもSNSで評価されたりすると、この仕事をしていて本当に良かったと感じます。

未来の社会を描き実現しよう

インターネットやスマートフォンが社会インフラとなった今日、総務省が担うICT、すなわち情報通信技術の範囲は広がる一方です。冒頭でご紹介した「4K8K」以外にも、「5G」(第5世代移動通信システム)、「ITS」(自動運転などの高度道路交通システム)、「IoT」(Internet of Things)、「サイバーセキュリティ」など、総務省が取り組むICT技術は多岐に渡ります。

それと同時に、5年後、10年後、20年後の社会をICTでいかに豊かにしていくか、少子高齢化や環境問題などの社会課題をICTでいかに解決していくか、我が国のICT分野の国際競争力をいかに強化していくか、そのために必要な研究開発課題は何かなど、総務省のミッションはますます重要になっています。

将来の社会を構想しそれを実現するためには、若い皆さんの柔軟な思考と社会に役立ちたいという純粋な思いが不可欠です。総務省で一緒に仕事をしてみませんか。



電波部長杯ソフトボール



高画質で臨場感あふれる映像を社会へ

総務省 情報流通行政局 放送技術課長

坂中 靖志

Yasushi Sakanaka

平成 2年 4月 郵政省採用
 平成 17年 8月 文部科学省生涯学習政策局参事官(学習情報政策担当)付企画官
 平成 18年 7月 同 初等中等教育局教職員課研修企画官
 命 初等中等教育局参事官付情報教育調整官
 平成 19年 7月 総務省総合通信基盤局電波部電波環境課企画官
 平成 20年 4月 同 総合通信基盤局電波部電波環境課企画官
 併任 認証推進室長
 平成 20年 7月 同 総合通信基盤局電波部移動通信課移動通信企画官
 併任 新世代移動通信システム推進室長
 平成 22年 7月 同 情報流通行政局衛星・地域放送課技術企画官
 平成 24年 8月 独立行政法人情報通信研究機構国際推進部門長
 平成 26年 7月 国立大学法人東北大学電気通信研究所特任教授
 平成 28年 7月 総務省総合通信基盤局電波部電波環境課長
 平成 29年 7月 現職

Voice of the young staff



総務省情報流通行政局
放送技術課

樋口 海里

(平成29年入省)

放送技術課では、テレビ・ラジオの放送局の技術的な面を幅広く取り扱っており、放送局の許認可や指導監督、新4K8K衛星放送の普及促進、地デジ日本方式の国際展開など業務は多岐にわたります。私自身、普段は許認可事務に携わりながらも、時には国際会議での交渉や分科会の立ち上げ、経理検査に携わるなど、1年目ながらも多くの経験ができた実感しています。

坂中課長は優しさに加えて爽やかなスポーツマン的一面も持つ方で、業務中は笑顔が絶えないのももちろん、自ら率先してワークライフバランスの実現に取り組むとともに、課職員の生活・健康面にも気を配ってくださいます。おかげで課内の雰囲気は明るく、風通しのよい恵まれた環境で過ごすことができます。坂中課長の下、課一同個性と能力を発揮して日々の業務に取り組んでいます。

Project

4K8K技術の利活用と海外展開の推進

4K8Kに代表される超高精細映像技術は、放送分野だけではなく、教育・学術、医療、設計・デザインなどの幅広い分野での利活用が期待されています。例えば、医療分野においては、8Kの内視鏡カメラを使うことにより正確な診断や処置が可能になります。また、教育・学術の分野では、実物の展示が難しい美術品も、臨場感ある映像によりその場にいるかのように鑑賞することができます。

総務省では、日本が先行する4K8K技術や最先端の放送機器を海外にアピールするため、専門家を対象とした技術セミナーやワークショップを開催しています。また、文化庁とも連携し、我が国の寺院や仏像の8K映像による海外展示を行い、我が国の文化と最先端技術の紹介を行っています。

当課の企画官は、南米など海外18カ国で採用されている日本方式の地上デジタル放送に関する技術支援や、4K8Kなどの最先端技術の紹介のために世界中を飛び回っており、私自身もタイのバンコクで開催するセミナーで講演を行ったところです。